

農業経営統計調査の重点化についての論点整理

【農水省の当初の案】

- 「担い手」についての数量的定義がない中、各種代替概念について個別に妥当性を検討。
- その結果、既に農林業センサスで用いられている主・準・副の区分を援用した上で、政策部局等でも「担い手」に近い数字として認識されている「主業経営体」と、中長期的視点から主業経営体になり得る途上段階にある「準主業経営体」をロングフォームの対象として設定することがセカンドベストと判断。
- 年齢を線引きの基準とすることを念頭に検討したものではないが、主準副の区分を援用する結果として、65 歳未満の経営体に対して、ロングフォームを求めることとなったもの



【委員の問題意識・論点】

- 調査票の配り分けの線引きに「主・準・副」の区分を用いた結果として、「65 歳未満にロングフォーム、65 歳以上にショートフォーム」という結果になっているが、そもそも、年齢による線引きが適当なのか。
- 仮に、年齢による線引き基準を残す場合、なぜ 65 歳でないといけないのか。65 歳を境として、不連続な実態がないということであれば、65 歳は、経営規模の違いに関する代理指標でもなく、営農継続の可能性の代理指標でもなく、それ以外の年齢でもよいのではないか。
- 本調査の目的・必要性を踏まえると、調査票の配り分けに当たり、年齢による線引きは用いず、独自の線引きもあり得るのではないか。具体的には、「青色申告にロングフォーム、白色申告にショートフォーム」という選択肢もあるのではないか。
- 自営農業に 60 日以上従事している 65 歳未満の世帯員がいない経営体を、一律に「副業的」とする定義・区分は適切なのか。